令和６年用りんご病害虫防除基準

発　行：ＪＡさがえ西村山・さがえ西村山りんご部会　大江りんご部

●農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
●農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
●この基準は、令和５年10月１日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前使用日数	総使用回数	散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
黒星病重点防除 ①展葉初期（発芽10日後）	ハダニ類	1．水（99ℓ）			350ℓ	1．ハダニ、越冬病害虫防除のため、マシン油乳剤の散布は必ず実施する。越冬ハダニの発生が多い場合は休眠期にハーベストオイル50倍（芽出し直前直後、－）を散布する。 2．モモチョッキゾウムシの多い園では、マブリックEW㊙2,000倍（30日前まで、２回以内）を使用してもよい。 3．ベフラン液剤25㊙は西洋梨に薬害を生じるおそれがあるので、かからないよう注意する。 4．カイガラムシ類の発生が見られる園ではアプロードフロアブル1,000倍（30日前、２回以内）を加用する。 5．モリニア病対策としてトップジンＭ水和剤1,500倍（前日まで、６回以内）またはベンレート水和剤2,000倍（前日まで、４回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
		2．ハーベストオイル 100倍（１ℓ）	展葉期（発芽後２週間まで）	－			
	モニリア病腐らん病黒星病	3．ベフラン液剤25㊙ 1,000倍（100㎖）	展葉期	６回以内			
②前回散布10日後	黒星病	1．ストライド顆粒水和剤 1,500倍（66g）	開花前まで	２回以内	350ℓ	1．ストライド顆粒水和剤に替えて、ＩＣボルドー412　30倍（－、－）を使用してもよい。 2．次回散布まで防除間隔の空く場合は、デランフロアブル2,000倍（60日前まで、３回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
③開花直前	褐斑病黒点病	1．トレノックスフロアブル 500倍（200㎖）	30日前まで	５回以内	400ℓ	1．シンクイムシ類の多い園地では、４月下旬にコンフューザーＮを150～200本／10ａ設置する。（下記「交信かく乱剤」参照）	散布日 月　日 散布量 ℓ
	黒星病うどんこ病	2．カナメフロアブル 4,000倍（25㎖）	前日まで	３回以内			
	ハマキムシ類ケムシ類	3．サムコルフロアブル 5,000倍（20㎖）	前日まで	３回以内			
④落花直後	黒星病黒点病黒褐斑病	1．トレノックスフロアブル 500倍（200㎖）	30日前まで	５回以内	500ℓ	1．クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	うどんこ病ニセアカシヤ葉モモ斑点落葉病黒星病褐斑病	2．ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍（50g）	14日前まで	４回以内			
	アブラムシ類リンゴワタムシ	3．ウララＤＦ 2,000倍（50g）	14日前まで	２回以内			
		4．クレフノン 100倍（１kg）					
⑤落花10日後	黒星病黒褐斑病	1．ペンコゼブ水和剤 500倍（200g）	30日前まで	３回以内	600ℓ	1．キンモンホソガ発生園ではフェニックスフロアブル4,000倍（前日まで、２回以内）を加用する。 2．うどんこ病発生園ではコナケシ顆粒水和剤4,000倍（７日前まで、２回以内）を散布する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	うどんこ病ニセアカシヤ葉モモ斑点落葉病	2．スコア顆粒水和剤 3,000倍（33g）	14日前まで	３回以内			
		3．クレフノン 100倍（１kg）					
⑥落花20日後	斑点落葉病炭そ病褐斑病輪紋病黒星病黒点病	1．デランフロアブル 2,000倍（50㎖）	60日前まで	３回以内	600ℓ	1．**この時期、毛ぶるい期に入り、サビが最も出やすくなるので、乾きやすい時間帯に散布する。** 2．クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。 3．リンゴワタムシの発生している園地ではトランスフォームフロアブル1,000倍（前日まで、３回以内）を散布する。 4．斑点落葉病・赤衣病・褐斑病の多い品種では、ボリオキシンＡＬ水和剤1,000倍（３日前まで、３回以内）を更に単用で使用する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	キンモンホソガギンモンハモグリガシンクイムシ類アブラムシ類リンゴワタムシ	2．ダントツ水溶剤 2,000倍（50g）	前日まで	３回以内			
		3．クレフノン 100倍（１kg）					
⑦6月10日頃	黒星病褐斑病	1．トレノックスフロアブル 500倍（200㎖）	30日前まで	５回以内	600ℓ	1．ヒメボクトウの発生が多い園では、**６月上旬にボクトウコン－Ｈを100～150本／10a**設置する。なお、３年以上連続して使用することで効果が安定する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	斑点落葉病褐斑病輪紋病黒星病黒点病	2．パレード15フロアブル 2,000倍（50㎖）	前日まで	２回以内			
	アブラムシ類キンモンホソガシンクイムシ類	3．サイハロン水和剤㊙ 2,000倍（50g）	７日前まで	３回以内			
		4．バイカルティ 1,000倍（100g）					
⑧6月20日頃	斑点落葉病褐斑病輪紋病	1．アントラコール顆粒水和剤 500倍（200g）	45日前まで	３回以内	600ℓ	1．殺ダニ剤を使用する場合は、４日前までに草刈りを終了する。 2．カネマイトフロアブルに替えて、ダニオーテフロアブル2,000倍（前日まで、１回）を使用してもよい。その際、次回防除の殺菌剤はナリア WDG2,000倍（前日まで、３回以内）を使用する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	アブラムシ類キンモンホソガシンクイムシ類	2．バリアード顆粒水和剤 2,000倍（50g）	前日まで	３回以内			
	ハダニ類	3．カネマイトフロアブル 1,000倍（100㎖）	７日前まで	１回			
		4．バイカルティ 1,000倍（100g）					
⑨7月初め	斑点落葉病すす点病すす斑病輪紋病炭そ病	1．アビオン－Ｅ 1,000倍（100㎖）	－	－	600ℓ	1．バイカルティはリン酸の含まれる薬面散布剤とは混用しない。 2．**斑点落葉病、褐斑病が多い園ではＩＣボルドー412 30倍（－、－）を使用してもよい。ＩＣボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。** 3．シンクイムシの多い園では、７月上旬にナシヒメコン50本／10a を追加設置する。 4．ヒメボクトウの被害がみられる園では、７月上旬頃フェニックスフロアブル4,000倍（前日まで、２回以内）を枝幹部に十分かかるようていねいに散布する。また、**ロビンフッド（前日まで、５回以内）**を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 5．オキシンドー水和剤80に替えて、ナリアWDG2,000倍（前日まで、３回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
		2．オキシンドー水和剤80 1,200倍（83g）	14日前まで	４回以内			
	シンクイムシ類アブラムシ類ハマキムシ類カメムシ類	3．サイアノックス水和剤 1,000倍（100g）	14日前まで	１回以内			
		4．バイカルティ 1,000倍（100g）					
⑩7月15日頃	斑点落葉病すす点病すす斑病輪紋病炭そ病	1．アビオン－Ｅ 1,000倍（100㎖）	－	－	600ℓ	1．バイカルティはリン酸の含まれる薬面散布剤とは混用しない。 2．斑点落葉病・輪紋病が多い園ではＩＣボルドー412 30倍（－、－）を使用してもよい。ＩＣボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。 3．降雨が続いた場合は、オキシンドー水和剤80 1,200倍（14日前まで、４回以内）を追加で散布する。 4．前年褐斑病の発生の多い園地ではオンリーワンフロアブルに替えて、ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍（14日前まで、４回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	斑点落葉病すす点病すす斑病輪紋病炭そ病	2．オキシンドー水和剤80 1,200倍（83g）	14日前まで	４回以内			
	褐斑病	3．オンリーワンフロアブル 2,000倍（50㎖）	７日前まで	３回以内			
	キンモンホソガギンモンハモグリガシンクイムシ類ハマキムシ類	4．エクシレルＳＥ 5,000倍（20㎖）	前日まで	３回以内			
		5．バイカルティ 1,000倍（100g）					
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。							
⑪7月25日頃	斑点落葉病すす点病すす斑病輪紋病褐斑病炭そ病	1．アビオン－Ｅ 1,000倍（100㎖）	－	－	600ℓ	1．褐斑病防除のため防除間隔を10日以上空けない。 2．ビタービット対策として、ストピットⅡ500倍を加用してもよい。 3．カメムシ類対策としてモスピラン顆粒水溶剤に替えて、スタークル顆粒水溶剤2,000倍（前日まで、３回以内）を使用してもよい。 日やけ軽減としてサンバリア1,000倍を葉摘み・玉回し前に２～３回使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
		2．オキシンドー水和剤80 1,200倍（83g）	14日前まで	４回以内			
	キンモンホソガギンモンハモグリガシンクイムシ類アブラムシ類リンゴワタムシ	3．モスピラン顆粒水溶剤㊙ 2,000倍（50g）	前日まで	３回以内			
	ハダニ類	4．コロマイト乳剤 1,000倍（100㎖）	前日まで	１回			
⑫8月5日頃	斑点落葉病褐斑病すす点病すす斑病炭そ病	1．ダイパワー水和剤 1,000倍（100g）	前日まで	開花期以降３回以内	600ℓ	1．ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 薬剤名 / 希釈倍率 / 収穫前使用日数 / 総使用回数 / 使用時期（７月 / ８月） マイトコーネフロアブル / 1,000倍 / 前日まで / 1回 / ○ ダニコングフロアブル / 2,000倍 / 前日まで / 1回 / ○ オマイト水和剤 / 750倍 / 3日前まで / 1回 / ○ アカリタッチ乳剤 / 2,000倍 / 前日まで / － / ○ / ○ ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がなく、残効性も期待できないので、５～７日間隔の連続２回散布や、他剤とのローテーションで使用する。 2．りんごの落果防止剤として、ストッポール液剤及びヒオモン水溶剤を使用できる。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類ケムシ類	2．テッパン液剤 2,000倍（50㎖）	前日まで	２回以内			
⑬8月20日頃	すす斑病すす点病斑点落葉病褐斑病輪紋病黒星病黒点病	1．フリントフロアブル25 2,000倍（50㎖）	前日まで	４回以内	600ℓ		
	シンクイムシ類キンモンホソガ	2．アグロスリン水和剤㊙ 1,000倍（100g）	前日まで	２回以内			
⑭9月上旬	斑点落葉病褐斑病すす点病すす斑病	1．ベルクートフロアブル 1,000倍（100㎖）	前日まで	開花期以降３回以内	600ℓ	1．シンクイムシ類対策として、スカウトフロアブル2,000倍（前日まで、５回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	キンモンホソガシンクイムシ類	2．バリアード顆粒水和剤 2,000倍（50g）	前日まで	３回以内			
〔特別〕9月下旬	褐斑病炭そ病すす点病すす斑病黒星病	1．ストライド顆粒水和剤 1,500倍（66g）	開花～前日まで	３回以内	600ℓ	1．高温時の散布は薬害の危険があるので、気温の低い時に散布する。 2．シンクイムシ類、ヨトウムシ対策としてフェニックスフロアブル4,000倍（前日まで、２回以内）を加用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
〔特別〕収穫後		1．展着剤（アビオン－Ｅ） 1,000倍（100㎖）			300ℓ		
	腐らん病	2．ベフラン液剤25㊙ 1,000倍（100㎖）	休眠期	６回以内			

耕種的防除

全般	1．適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2．園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3．病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
炭そ病輪紋病	1．園地周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 2．樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 3．休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
黒星病	1．発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシマルカイガラムシ	1．園地周辺の雑木は、寄種（伝染源）になるので除去する。

りんご施肥基準（成木：10a 当り）

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
つがる（3,600kg）	フレッシュフルーツ有機80	60～80kg	９月下旬	3.6～4.8	1.8～2.4	1.2～1.6
ふじ（3,600kg）	フレッシュフルーツ有機80	40～80kg	10月上中旬	2.4～4.8	1.2～2.4	0.8～1.6

●㊙印は劇物です。購入の際は印章をご持参下さい。

落果防止剤の使用について

落果防止剤	使用時期	注意事項
ストッポール液剤 1,500倍　２回以内	収穫開始予定 25～７日前	単用で散布する。
ヒオモン水溶剤 2,000倍　２回以内	収穫開始予定 21～４日前	単用で散布する。

交信かく乱剤（シンクイムシ・ヒメボクトウ対策）

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モモシンクイガチシヒメシンクイハマキムシ類	コンフューザーＮ	４月下旬にコンフューザーＮを150～200本／10a 設置し、７月上旬にナシヒメコン50本／10a を追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	
ヒメボクトウ	ボクトウコン－Ｈ	６月上旬に100～150本／10a 設置する。なお、３年以上連続して使用することで効果が安定する。

１．設置場所は、目通りの高さに８割、２割を上部に、園地内均一に設置する。
２．傾斜上部の設置割合を１～２割多くする。
３．園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
４．防風ネットなどを利用する。
５．高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。